※令和３年度以前入学生用

学校番号	３０１３

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅲ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「改訂版　最新　数学Ⅲ」（教研出版）						
副教材等	チャート式 改訂版 基礎と演習 数学Ⅲ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

関数と極限、微分法、積分法についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	複素数平面、関数と極限、微分法、積分法の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	複素数平面、関数と極限、微分法、積分法において、事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	関数と極限、微分法、積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	関数と極限、微分法、積分法における基本的な概念、原理･法則などを体系的に理解し､知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート レポート 観察等	小テスト ワークシート レポート 観察等	小テスト ワークシート レポート 観察等	小テスト ワークシート レポート 観察等

※令和３年度以前入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	関数	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数	○	○	○	○	a:分数関数などの式とグラフの関係をとらえ、不等式を解くなどの考察に活用しようとしている。 b:式とグラフの関係を理解し、考察したりすることができる。 c:式の変形とグラフの移動の関係を理解し、適格に表現できる。 d:グラフに関する基本的な用語・記号を理解し、以前に学習した関数やグラフと関連付けて理解している。	
	数列の極限	数列の極限 極限の計算 無限等比数列 無限級数	○	○	○	○	a:数列とその極限について関心をもち、それらを考察に活用しようとしている。 b:数列とその極限を関係付けて考察することができる。 c:数列とその極限を調べることができる。 d:数列とその極限について理解している。	
	関数の極限	関数の極限 いろいろな関数の極限 関数の連続性	○	○	○	○	a:関数の極限について考察しようとしている。 b:関数の極限について考察することができる。 C:関数の極限を求めることができる。 d:関数の極限を理解している。	
2学期	微分法	微分係数と導関数 積･商の導関数 合成関数と逆関数の微分法 三角関数の導関数 指数関数の導関数 対数関数の導関数 第 n 次導関数 x, y の方程式で定められる導関数 対数微分法	○	○	○	○	a:微分の基本的な考え方に興味を持ち、考察しようとしている。 b:微分係数や関数の微分について考察することができる。 c:微分係数や関数の微分を求めることができる。 d:微分係数の意味、関数の微分法の意味を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

	微分法の応用	接線の方程式 平均値の定理 関数の増減 関数の極大･極小 関数のグラフ 方程式、不等式への応用	○	○	○	○	a:関数の増加減少と極値、関数とそのグラフに関心をもち、考察しようとしている。 b: 関数の増加減少と極値、関数とそのグラフについて考察することができる。 c: 関数の増加減少と極値、関数とそのグラフを求めることができる。 d: 関数の増加減少と極値、関数とそのグラフの意義を理解している。	
３学期	積分法とその応用	不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 定積積分の置換積分法と部分積分法 定積分と極限･不等式 面積 体積	○	○	○	○	a:不定積分や定積分の手法を考察に活用しようとしている。 b:不定積分や定積分の手法を用い、それらを的確に表現することができる。 c:不定積分を用い、定積分の計算を求めることができる。 d:不定積分の手法や定積分の計算、図形の面積・体積などへの応用の意味を理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b: 数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。